

南予地域づくり事例発表会について

南予地域づくり事例発表会は、愛媛県と当センターの共催で平成18年10月4日愛媛県歴史文化博物館において開催したものです。この発表会は、今後の南予地域の活性化に向けた取り組みの参考にしていただきたいという強い思いで、株式会社四万十ドラマの畦地専務、日本政策投資銀行松山事務所の^{うのき}鶴木所長、株式会社おおず街なか再生館の河野専務を講師として、お話しいただきました。

南予地域においては、基幹産業である農林水産業の不振、製造業の相次ぐ撤退などで地域経済の低迷が顕在化しています。9月28日に発表された国勢調査の確定値によりますと、南予地域の人口は過去5年間に圏域人口の6%に相当する約2万人が減少しており、今後さらなる地域活力の低下が危惧されるところです。

こうした状況をうけ、愛媛県では南予地域の活性化に向け、基幹産業である農林水産業の経営基盤や流通力の強化を初め、食品関連産業、地域密着型ビジネスの育成、えひめ町並博2004を継承した観光まちづくり、コールセンター等の企業誘致などを行ってきました。また、本年度新たに南予地域活性化特別対策本部を設置し、住民が主体をなした内発的な取り組みに対する支援を行っています。

しかしながら、深刻な状況にある南予地域に活力を取り戻し、持続的な発展を遂げていくためには、行政による取り組みと相まって、地域の皆様が将来ビジョンを描き、その実現に向け主体的、自主的な取り組みを行うことが不可欠であると考えます。今回ご紹介した株式会社四万十ドラマの事例を初め、高知県馬路村のゆずの森構想、徳島県上勝町の彩り事業など、四国内には非常に厳しい環境や条件にもかかわらず、優れたリーダーのもと、みずからの力で困難な道を開き、活性化の実が結んでいる事例も見られます。南予地域におきましても、地域住民の皆様や地元の団体、企業等による個性的で主体的な地域づくりが、各地域で進むことを強く期待されています。

今回の事例発表会の中から、今後の活動につながる何らかのアイデアやヒント、そういったものを見つけていただければ大変幸いに存じます。

